

元ちゃんの

今年の天気

旧暦、よっ 日本一!

# 来年の天気



## 1. 今年の天気 (令和二年)

暦	新暦	旧暦 (標準差)	令和元年 季節事象	新暦 (平年差)	旧暦
春節	2.1.25	一月一日 (-11)			
立春(二) 東風氷を解く(七) 春節	2.2.4 (-11)	一月十一日	春一番 (関東)	2.2.22 (+4)	一月廿九日
うぐいす鳴く(七)	2.2.9	一月十六日 (-11)	うぐいす初鳴 (銚子)	2.2.25 (+1)	二月二日
桜始めて開く(七)	2.3.10	二月十六日 (-11)	桜開花 (銚子)	2.3.27 (-4)	三月四日
玄鳥(つばめ)来る(七)	2.4.4	三月十二日 (-12)	つばめ初見 (銚子)	2.3.19 (-13)	二月廿五日
立夏(二) 蛙始めて鳴く(七)	2.5.5	四月十三日 (-13)	ニホアマガイル初見 (銚子)	2.4.9 (+2)	三月十七日
入梅(雑)	2.6.10	閏四月十九日 (+15)	梅雨入り (関東)	2.6.11 (+3)	閏四月廿日
立秋(二) 涼風至る(七)	2.8.7	六月十八日 (+11)			
蝸鳴く(七)	2.8.12	六月廿三日 (+11)	ヒグラシ初鳴 (横浜)	2.8.3 (+11)	六月十四日
十五夜	2.10.1 (+9)	八月十五日			
楓鳥黄ばむ(七)	2.11.2	九月十七日 (+9)	カエデ紅葉 (銚子)	2.12.16 (+4)	十一月二日
立冬(二) 山茶はじめて開く(七)	2.11.7	九月廿二日 (+9)	つばき開花 (東京)	2.12.27 (+16)	十一月十三日
北風木の葉を払う(七)	2.11.27	十月十三日 (+8)	木枯し一号 (東京)	2.11.4 (-3)	九月十九日



暦：二十四節気(二)、七十二候(七)、雑節(雑) 他

旧暦標準差：当該新暦日の標準的な旧暦換算日(1981~2010年の30年平均)との比較

新暦平年差：+<遅い> ・ -<早い>

事象：令和2年における気象官署の季節観測(生物季節観測情報)

## 令和二年 庚子 <かのえね>

### 【 春 】新暦 2.1.25~2.4.22 早咲梅招 (春を招く早い梅花開花)



冬の訪れが遅かったのか、春が早く始まってしまったのか、はたまた冬がなかったのか…新暦1月は東・西日本で1946年の統計開始以降1月として1位の高温になりました。そして新暦2月も暖かくなりました。新暦3月もまた暖かくなり、全体的に暖かな「春」でした。とはいえ、時々には冬に戻ってしまったりするもので、例えば、東京でソメイヨシノが開花した新暦3月14日には雪が降りました。1953年以降最も早い開花となる一方、初の雪の日の開花となりました。新暦3月29日も、南岸低気圧の影響により都心で積雪、今季2度目の雪景色の中に咲く桜となりました。そして新暦4月以降は、平年を下回る気温の日々が続きました。

【写真：睦月一日<新暦1月25日>:令和二年元旦 初日の出】

### 【 夏 】新暦 2.4.23~2.8.18 炎長卯腐 (長く続く卯の花腐らし)



相当荒れた夏となりました。これも閏四月の影響ですかね…。まず、少し涼しかった新暦4月が過ぎ、新暦5月は各地で暖かくなりました。予想通り早めの夏入りです。新暦6月も暖かく、なりました。さて、ここから天候は荒れます。まず新暦7月、「令和2年7月豪雨」。強い太平洋高気圧、偏西風の蛇行等により、梅雨前線が活発化、各地で甚大な被害が発生しました。梅雨明けは相当遅れましたね。そして荒れた天候は続きます。太平洋高気圧とチベット高気圧が重なり、猛暑の新暦8月、酷暑の夏。総じて元ちゃんの天候予想「夏」は的中！文句なし！間違えたのはオリンピックの開催だけですかね…



【写真：左:閏卯月廿三日<6月14日>:梅雨入り空とタチアオイ 右:皐月七日<6月27日>:梅雨の晴れ間とタチアオイ】

### 【 秋 】新暦 2.8.19~2.11.14 暑残恋萩 (恋の余韻が残暑残る萩の秋)



確かに残暑は厳しかったです。秋入り遅く、元ちゃん予想はまさに的中！新暦8月の気温は高く、1946年の統計開始以来、東日本では1位、西日本では1位タイとなりました。新暦9月は、太平洋側を中心に曇りや雨の日が多くなりました。下旬以降は西日本を中心に気温が平年より低いところもあり、「新暦9月以降に秋を感じ始める」という元ちゃん予想はここでも的中！新暦10月も低気圧や前線、湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多かったため、日照時間は東日本太平洋側等で少なくなりました。気温は、北日本以外は平年並みも、中旬以降は平年を下回る日もありました。新暦11月の下旬は割と涼しい日が続きましたね。台風の上陸がゼロの秋でもありました。



【写真：左:葉月十五日<10月1日>:東京駅と中秋の名月 右:長月十三日<10月29日>:東京駅と十三夜月】

### 【 冬 】新暦 2.11.15~3.2.11 遅色山橘 (山橘(十両)の実遅い色づき)



新暦11月16~20日頃、つまり冬入り直後は暖かくなりました。季節が数か月前にもどったようなポカポカ陽気。おおっ！元ちゃんの予想どおり、と思っていたら、新暦12月中旬頃より急に寒くなりました。おおっ！これも元ちゃん予想通り。新暦18日~20日頃には北陸地方や東北日本海側で記録的な大雪となりました。また、新暦年末頃にも強い寒気が南下し、各地でこれまた大雪となりました。今秋の福井新聞に、「高さ1.7mの高さで百舌鳥の早糞を発見、今冬は大雪？」との記事が出ていましたが、元ちゃん予想に加え、百舌鳥予想も的中のようです。やはり動植物は季節をよく知っています。動植物の知恵に感服。そして今年は「地震に注意」と予想していましたが、新暦12月中旬頃、関東地方では強くはありませんが地震が続きましたね。



【写真：野田市の空が割れた！左:霜月五日<12月19日> 右:霜月六日<12月20日>】

## 2. 来年の天気（令和三年）



暦	新暦	旧暦 (標準差)	標準 旧暦
立春(二) 東風氷を解く(七)	3.2.3	令和二年十二月廿二日 (+8)	十二月三十日
春節	3.2.12 (+9)	一月一日	(標準新暦) 2月4日
草木萌えいずる(七)	3.2.28	一月十七日 (+8)	一月廿五日
桜始めて開く(七)	3.3.10	一月廿七日 (+7)	二月五日
玄鳥(つばめ)来る(七)	3.4.4	二月廿三日 (+7)	二月廿九日
立夏(二) 蛙始めて鳴く(七)	3.5.5	三月廿四日 (+5)	三月廿九日
入梅(雑)	3.6.11	五月二日 (+2)	五月四日
立秋(二) 涼風至る(七)	3.8.7	六月廿九日 (+0)	六月廿九日
蛸鳴く(七)	3.8.12	七月五日 (+0)	七月五日
十五夜	3.9.21 (-1)	八月十五日	(標準新暦) 9月22日
楓鳥黄ばむ(七)	3.11.2	九月廿八日 (-3)	九月廿五日
立冬(二) 山茶はじめて開く(七)	3.11.7	十月三日 (-3)	九月三十日
北風木の葉を払う(七)	3.11.27	十月廿三日 (-3)	十月廿日



暦：二十四節気(二)、七十二候(七)、雑節(雑) 他

標準差：+<遅い> ・ -<早い>

標準旧暦：当該新暦日の標準的な旧暦換算日(1991~2020年の30年平均)

## 令和三年 辛丑 <かのとうし>

概況：家路過客(季節は徐々に早まる。家路についた旅人のごとし。)

【春】新暦 3.2.12~3.5.11

遅迎行春 (遅く迎えの行く春や)



まだ去年の閏月の影響が残っており、令和三年の春節(旧暦元旦)は新暦 2月12日となります。一般的な春の始まりよりも 1週間以上遅く(そういえば年内立春ですね)、遅めの春の訪れとなりそうです。本格的な暖かさは、新暦 3月中旬頃からでしょう。梅や桜の見ごろも遅めかな。少し寒い春かもしれません。春の終わりは新暦 5月 11日。

行く春や 鳥啼き魚の目は涙 (『奥の細道』 松尾芭蕉)

【夏】新暦 3.5.12~3.8.7

和流蝉声 (穏やかに流れる蝉の声)



夏の始まりは新暦 5月 12日。引き続き少し遅めの夏の入りとなりそうです。ただ、梅雨の頃には暦も落ち着き、ほぼ平年並みもしくはほんの少し遅めの“梅雨入り”となりそうです。そして暦上の夏は新暦 8月 7日まで。ほぼ平年並みの夏の終わりとなりそうです。今年こそはオリンピックの開催を期待しています。開催時はまだ暑いですが、後半は少し落ち着くかも。

閑(しずけ)さや 岩にしみ入る 蝉の声 (『奥の細道』 松尾芭蕉)

【秋】新暦 3.8.8~3.11.4

斉年天河 (いつもの頃に天の河)



令和三年は新暦 8月 8日からが秋です。閏月の影響は無くなり、ほぼ平年並みの秋の入りですね。残暑はもちろん厳しいですが、これはいつものこと。ほぼ平年並みの残暑と予想します。本格的に秋を感じ始めるのは、新暦 9月中旬以降かな。秋冬野菜の種まきは、いつも通りで。十五夜(芋名月)は新暦 9月 21日、また十三夜(栗名月)は新暦 10月 18日。

荒海や 佐渡によこたふ 天の河 (『奥の細道』 松尾芭蕉)

【冬】新暦 3.11.5~4.1.31

漸駈翁忌 (徐々に季節は駈け足で)



冬は新暦 11月 5日から。こちらあたりから季節は徐々に早まっていきます。とはいえ、令和三年の冬はほぼ平年並み(もしくはほんの少し早め)のスタートとなりそうです。本格的な冬の訪れは新暦 12月上旬頃からで、新暦年末は寒くなりそうです。さらに 2022 年の新暦正月も寒さど真ん中で、年末年始は暖かい格好での帰省をお勧めします。冬が明けるのが新暦 1月 31日、2022 年の春の訪れは少し早くなりそうですよ。

旅に病んで 夢は枯れ野を 駈け巡る (松尾芭蕉)

翁忌 = 元禄七年十月十二日

元ちゃんの

今年の天気

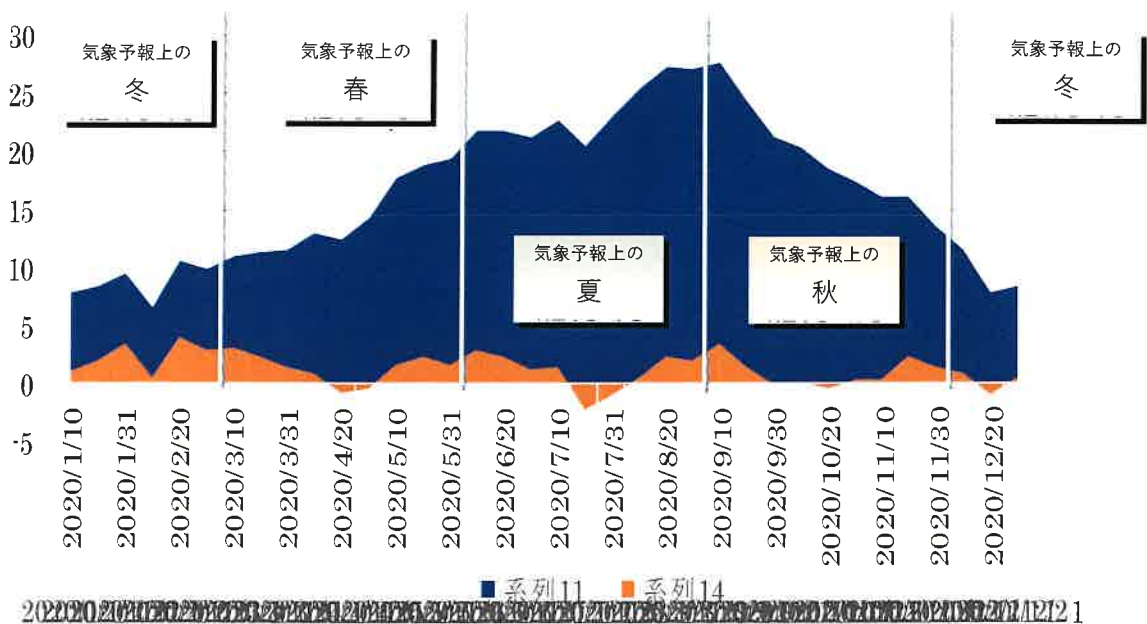
余談

# 来年の天気

## 2020年の評価



銚子：平均気温(青)、平年差(橙)



- 春：【予想】春の訪れ早く暖かな春 【評価】○
- 夏：【予想】荒れた長く暑い夏 【評価】○
- 秋：【予想】残暑厳しく秋入り遅れる 【評価】○
- 冬：【予想】遅めの冬入り 12月下旬より冬本番 【評価】○

### 【参考:気象庁発表 2020年(令和2年)の日本の天候の特徴】

- 気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的にかなり高かった  
 冬(2019年12月～2020年2月)は、冬型の気圧配置が続かず全国的に高温となった。春は、3月と5月に日本の南からの暖かい空気が入りやすく、北・東・西日本で高温となった。夏は、6月は日本の南海上の高気圧が西に張り出して日本付近に暖かい空気が入りやすく、8月は太平洋高気圧に覆われ、全国的に高温となった。秋は、9月前半は高気圧周辺を回る暖かい空気が入り残暑が厳しく、また11月後半は北日本以北を通過する低気圧に向かう暖かい空気が入り、西日本を除き高温となった。このように年間を通して気温の高い状態が続いたため、年平均気温(2020年1月～12月)は全国的にかなり高く、東日本で平年差+1.2℃と、1946年の統計開始以来、最も高くなった。

## 2021年の注意報

### ・過去の辛丑(かのとうし)

- 1901年：八戸地震
- 1961年：台風26号、梅雨前線豪雨(三六災害)、  
第2室戸台風



### ・過去の同月推移年(19年前)

- 1964年：台風20号
- 1983年：昭和58年7月豪雨、台風10号(雨台風)、日本海中部地震(津波)
- 2002年：台風21号



## ⇒2021年は水害に注意

### ちなみに、19年前(2002年)の天候概況

・概況：新暦1月から5月頃まで全国的に高温傾向が続き、夏になっても東・西日本では高温で経過。秋以降は気温の変動が大きくなり、新暦11月には全国的に著しい低温となった。

- ・冬(新暦2002年12月～2月)：全国的に高温。1月には太平洋側でまとまった雨や雪。
- ・春(新暦3月～5月)：全国的に高温、東日本以西の～4月は極端な高温。
- ・夏(新暦6月～8月)：北日本で多雨・寡照・低温、西日本で少雨・多照・高温。  
梅雨：新暦6月11日頃、ほぼ一斉に遅めの梅雨入り。梅雨明けは遅めの九州・四国を除きほぼ平年並み。
- ・秋(新暦9月～11月)：全国で低温。11月上旬は北日本で大雪。
- ・冬(新暦12月～2003年2月)：12月、1月は低温なるも、東・西日本は平年並み。

※2021年と同じような旧暦配置